

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3 月 10 日

【評価実施概要】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山県和歌山市小瀬田 8 番地 073-479-2255		
評価機関名	社団法人日本社会福祉士会和歌山県支部第三者評価委員会		
所在地	和歌山市太田421-1		
訪問調査日	平成20年2月24日	評価確定日	平成20年3月24日

【情報提供票より】 (平成20年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無 (但し利息は付さない)
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (1 月 20 日現在)

利用者人数	17 名	男性 1 名	女性 16 名
要介護 1	3名	要介護 2	5名
要介護 3	7名	要介護 4	1名
要介護 5	1名	要支援 2	
年齢	平均 82.7 歳	最低 69 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機

協力医療機関名	医療法人 稲祥会 稲田病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静けさと自然の中で温かな入って行きやすい雰囲気のあるホームである。施設長、職員ともに熱意を持って日々の業務やホームの運営に取り組んでいる。往診や通院介助など体調管理は行き届いており、入居者、家族、職員が安心感のある安定した生活を送ることができている。近隣や他施設との交流にも取り組まれており、地域に溶け込んだ運営がなされている。職員は入居者一人ひとりのことを常に考えながら共に支えあう関係を築けるよう努めている。楽しく和やかに生活できている様子が伺える。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価の改善課題は、定期的な会議等の議題として、それぞれの項目について改善の方法を話しあい取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は職員全体で話し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、メンバーからホームでのガーデニングや家庭菜園についての提案や意見を求め、サービス向上に活かし取り組んでいる。入居者の生活状況やイベント開催などホーム運営上の取り組みについて話しあい意見を求めている。メンバーから出された意見は、運営に活かし取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の意見や相談等についての対応方法については連絡を密にして周知を図っている。意見や相談に対しては希望に沿えるよう対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の行事や集会などには積極的に参加している。近所の人が気軽に立ち寄り入居者と時間を共に過ごすなど交流ができている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	閉じこもりによるストレスを溜めない工夫、又、どのようにストレスを解消するかを考え援助する、入居者中心に考え援助するという独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的な会議などで十分に話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。日々の業務を行う時に理念を念頭において取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の集会や各行事（地域の消防訓練等）に積極的に参加しており、地域の人々とも交流が図れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と目的を全職員に伝え、少人数の研修会を行い全員で自己評価に取り組んでいる。更なる向上を目指して改善や意識向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではメンバーからホームでのガーデニングや家庭菜園などについての提案や意見を求め、サービスの向上のため活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の都度、案内を送付し、連携を図るための働きかけを積極的に行っている。(市の参加が望めるように、文書内容の工夫があるが)しかし市とともにサービスの質の向上に取り組むまでは至っていない。	○	市町村と連携を図れる機会を持つことで連携を密にし、サービスの質の向上となるよう取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月ホームにおける入居者の生活の様子や行事の写真を記載した「ふるさと便り」を送付し報告している。家族が面会に訪れたときには、その都度、入居者の日ごろの生活状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との連絡を密にして何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心がけている。家族の意見をサービスに反映させていけるよう意見箱の設置について前向きに検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの入居者や職員が頻繁に交流できており、全職員が全入居者や家族と信頼関係ができています。いつでも誰にでも対応できる体制ができるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できている。グループホーム連絡会が開催する研修会にも参加している。研修内容は必ず伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が主催する研修会に参加し他のホーム職員との交流を図っている。近く介護老人保健施設等との相互研修を予定しておりサービスの質を向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
う					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が見学したり、職員が自宅を訪問するなど安心感を持ってもらえるようにしている。入居後は孤独にならないよう接し徐々に馴染んでもらえるように心がけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの思いに共感し、暮らしの中で分かち合い共に支えあえるよう心がけている。仕事が大変な時にはいたわりの言葉を職員にかけてくれるなど場面もみられ、支えあう関係を築けるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人や家族から生活歴、病歴などの情報を得るようにしており、一人ひとりの思いや希望等を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のかかわりやアセスメントを工夫し、本人や家族の思いや希望を聞き、介護計画に反映させるようにしている。カンファレンスで話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しだけでなく、その時々状況に応じた対応ができるよう家族とも相談し随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と医療連携をとると共に定期的な往診により健康管理を行い、本人や家族の状況に応じて通院の支援をするなど柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からの週1回往診のほか本人、家族の希望に応じて通院介助を行っている。複数の医療機関と関係を密に結んでおり、きめ細やかに利用者の健康管理に取り組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族の意向を十分に聞き、医師、看護師、職員を交え話し合い方針を共有し、連携を図れている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の人格を尊重し、誇りを傷つけ不快な思いをしないよう、言葉、行動等に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりの気持ちや生活リズムなどを考慮し、散歩や買い物等本人の希望を沿えるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は入居者と共に考え決めるようにしている。食事の準備、かたづけ、食器洗いも入居者と共に行っている。職員と入居者が共に楽しく食事ができている。気候のよい日には芝生の上での食事や外食など雰囲気を楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から夕方にかけて入居者の希望に応じて温度や時間に配慮し、入浴を楽しめるよう支援している。本人の希望や体調によっては清拭や足浴などができるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴などから過去の経験を生かし、食事の手伝いや畑仕事など一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい日は居室の吐き出し窓を開けて自由に芝生に出られるよう工夫している。天気や本人の気分や希望に応じて日常的に散歩に出かけている。又、近くへ買い物にもでかけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける、かけない以前に入居者の生活を制限したりすることなく、開放感のある自由な雰囲気の中で、生活できるよう配慮されている。職員は入居者の様子を見守ることができ、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を実施している。地域の自治会の防火訓練にも職員が積極的に参加している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週ごとの献立表を作成し栄養バランスを考慮している。食べる量や水分摂取量をチェック表等で確認、把握し入居者個々の状態に応じ対応している。食事は必ず写真で記録しており、次の献立に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には行事の写真などを貼っている。花や木がさりげなく置いてあり、季節を感じることができる。明るく開放感にあふれた空間で家庭的な雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用していた馴染みのものが自由に持ち込まれ居心地よく生活できるよう工夫している。入居者各々の個性のある部屋となっていて自分の居場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。